

令和2年12月21日

令和2年度有機野菜プロジェクト実施報告書

本年度営農支援センター生産流通部会事業として、取り組んだ有機野菜プロジェクトの実施報告を下記に示します。

記

1. 実施目的

有機野菜の栽培を通じて、子供たちに安全な食べ物の提供と村内全体に地産地消の意識を持ってもらい、農業に関わる人を増やすことを目的としました。北保育園・南保育園・シュタイナー療育センターに納品を行いました。農作業と有機野菜の現状を把握し、有機野菜の普及事業の継続と推進に生かします。

2. 実施日時

令和2年4月15日(水)から令和2年12月10日(木)

3. 実施場所

第1有機圃場から第3有機圃場(川西)
第4有機圃場(すずの音ホール東側)

4. 内容

・農作業

有機野菜プロジェクトの活動は、総勢14名で作業を行いました。開催日は水曜日で時期によって開催回数が異なりました。参加者は毎回10名程度で実施しました。親子参加が多く、子供たちに野菜の栽培から収穫までの過程を実践で伝えることが出来ました。作付けは12品目で、保育園とシュタイナー療育センターの要望を参考にしました。

開催日時：毎週水曜日

午前9時から午前11時

参加者：14名

有機農業に興味を持つ移住者(農業経験者・初心者)、
シュタイナー療育センター

作付け：第1有機圃場

前期 タマネギ、チンゲンサイ、ニンジン

後期 ダイコン、レタス、ブロッコリー、ハクサイ、キャベツ、ニンジン
チンゲンサイ、コマツナ、カブ

第2有機圃場

前期 サニーレタス、レタス、キャベツ

第3有機圃場

前期 ジャガイモ

第4有機圃場

後期 タマネギ

作業：播種、定植、間引き、土寄せ、草取り、水やり、収穫、片付け

・給食

有機野菜を村内の子供や地域の人に消費してもらう為、保育園とシュタイナー療育センターに給食の食材として提供しました。保育園は毎月1回注文をもらいました。期間は6月から11月の間で、6品目を納品しました。また、シュタイナー療育センターは毎週2回注文をもらいました。期間は8月から12月までの間で、8品目を納品しました。根菜類は保存が可能な為、長期的に納品が出来ました。葉物類は納品時期が限られている為、定期的に納品することが困難でした。

保育園

品目は、ジャガイモ、タマネギ、チンゲンサイ、キャベツ、コマツナです。調理担当者より意見が3点上がりました。

1点目は、タマネギの場合、中身が褐色している為、1個ずつ確認して下さい。

2点目は、チンゲンサイの場合、茎の中までしっかり土を取り除いてほしいです。

3点目は、キャベツの場合、葉に穴が無い物を希望します。

以上の状態の場合、調理時間がかかる為、使いづらいと言う内容でした。

シュタイナー療育センター

品目は、ジャガイモ、タマネギ、チンゲンサイ、キャベツ、ダイコン、ニンジン、ハクサイ、カブです。葉物類は時期物の為、出荷出来るタイミングで随時試供品を提供しました。調理担当者より意見が3点上がりました。

1点目は、小さいジャガイモとタマネギの場合、皮むきの回数が増加して、調理時間がかかり大変でした。

2点目は、葉物類の場合、中心部まで虫や傷みのある物も混入していました。

3点目は、限られた時間の中で大量の野菜を使う場合、有機野菜は品質・形質が不揃いの為、手間をどうしたら良いかを検討が必要です。

以上の状態の場合、調理時間がかかる為、使いづらいという内容でした。

・原価

ジャガイモ、タマネギ、チンゲンサイ、キャベツ、ダイコン、ニンジン、ハクサイ、カブ、コマツナ、レタス、サニーレタスの原価を算出しました。令和3年度収穫予定分のタマネギと収穫中のブロッコリーは原価の算出が出来ない為、除外しました。

有機野菜の原価試算については、12品目の合計が570,412円になりました。別紙に示した希望最低単価に設定した場合、収支がほぼ無い状態です。しかし、来年度の作付けに伴う当面の運転資金(種苗費・肥料費)分を確保する必要があります。本年度は、種苗費・肥料費の合計が159,338円となりました。来年度も同面積の作付けする場合、約200,000円が繰越金として必要になります。そのような場合、別紙の最低希望単価に40%程度上乗せした単価設定をしなければなりません。単価を上乗せすることによって、市場の相場より高額な野菜になります。

原価を下げる対策として、経費の見直しをしなければなりません。雇用費は、207,972円で経費として1番費やしました。慣行栽培と比較した場合、作業の時間がかかる為、必然的に高くなります。雇用費を削減する為には、都度作業量に合わせた適正な人数の確保に努めます。また、別紙の収量より、本年度は収穫量が非常に少なかったです。作付け計画を立て、確実に作業が出来る範囲で行う必要があります。野菜の旬と収穫時期を逃さない栽培管理が最も重要になります。また、廃棄等のロスの軽減をすることが可能になります。諸材料費は89,075円で、使い回しの効く強耐性資材を使用しました。来年度も継続して使用することが必要です。

5. 所感

年間を通じて、作物栽培を行い、保育園とシュタイナー療育センターに納品することが出来ました。今回は、有機野菜の給食献立導入が目的の為、来年度の納品先の選定する必要があります。保育園とシュタイナー療育センターの継続確認と新規の納品先の開拓が重要です。相互とも有機野菜に関心・興味はあることが分かりました。給食の食材として利用する場合、品質の良い野菜を提供して、調理時間の短縮を望んでいます。来年度は消費者の意見を参考にしながら、作付内容・栽培・管理について検討します。農作業については作付け計画で行い、資金管理と人材確保が重要になります。初年度は営農支援センターで資金管理を行ったが、将来的に有機野菜農業従事者に譲渡する方針の為、来年度はもう1年検討します。人材確保は、本年度の参加者に協力依頼と新規メンバーの募集をかける必要があります。現状は、参加者1人あたりにかかる作業負担が大きい印象があります。有機野菜プロジェクトの活動は、毎年野菜栽培技術の向上と消費者と信頼関係を築き上げることで、有機野菜の普及事業を継続・推進していくことが可能であると考えています。

6. 参考資料

納品実績書、支出明細書、収入見込み試算明細書

以上